

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

1. 学力について

近江八幡市では、学習指導要領に則り「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をまとめて「生きる力」とし、この「生きる力」は、学校、保護者、地域が一体となって取り組むことによって形成されていくと考えています。「全国学力・学習状況調査」は、調査のねらいから、学校をはじめとする子どもたちを取り巻く学習環境、生活環境を改善していく上でたいへん有効であります。しかし、これですべての学力が測れるのではなく、子どもたちが持つべき学力の一部を測るものにとらえています。

2. ねらい

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てます。

3. 調査の特徴

・教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

*理科については、A問題とB問題を一体的に問う。

A 問題 ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B 問題 ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

質問紙調査 ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関わる調査

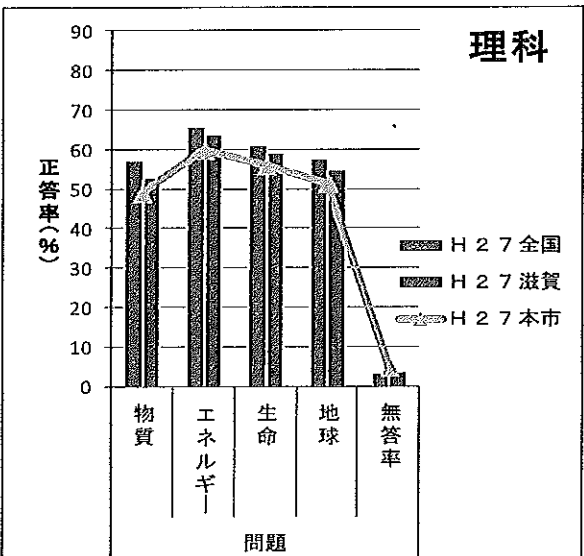
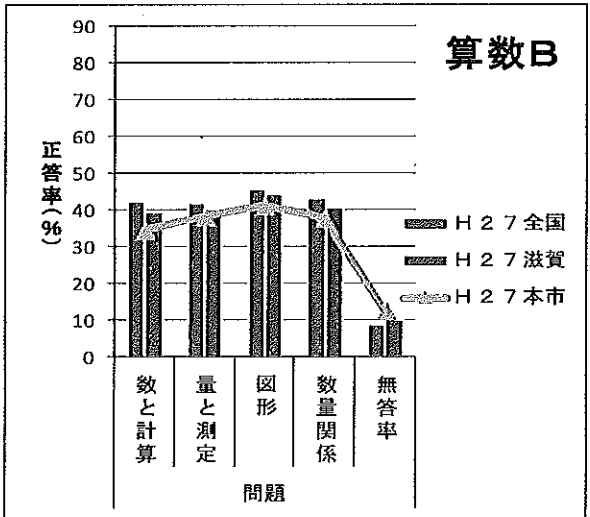
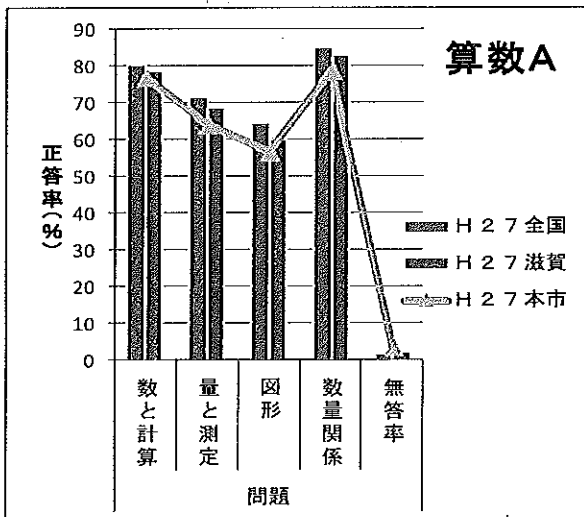
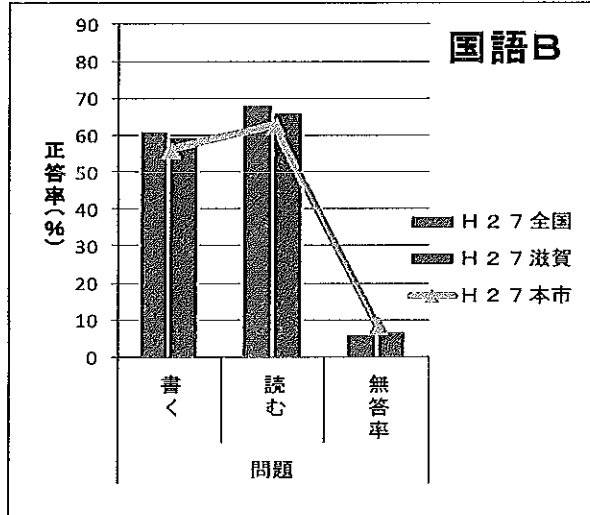
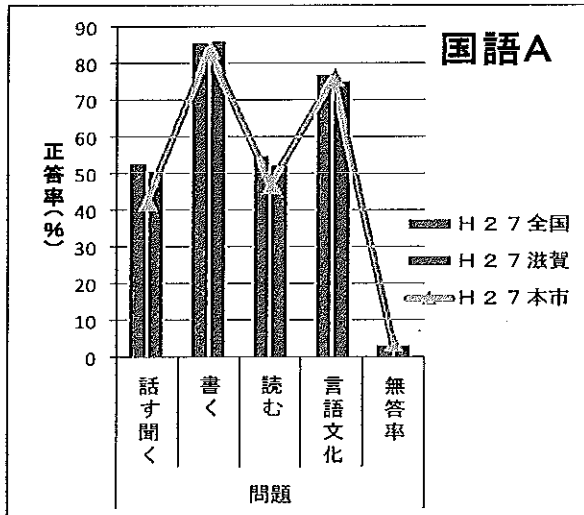
実施 状況 実施日：平成27年4月21日（火）
実施学年：市内公立小中学校（小学校12校、中学校4校）の
小学校6年生、中学校3年生の全児童生徒
*市内私立小中学校も実施しましたが、本公表には含まれていません。

4. 教科の結果

近江八幡市の児童・生徒の全体的な傾向

小学校

領域別平均正答率の比較

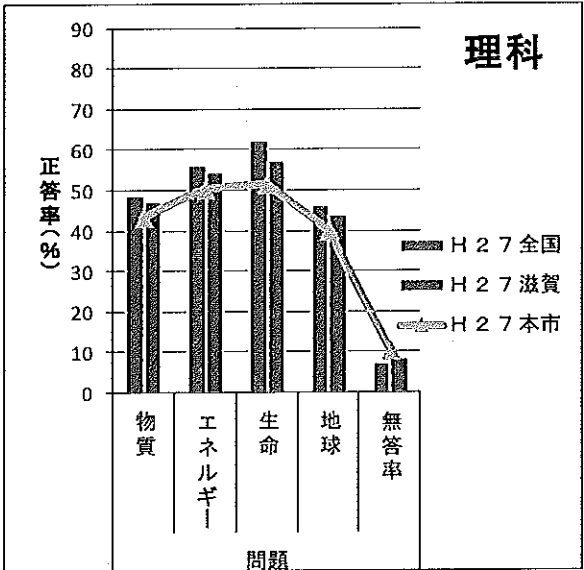
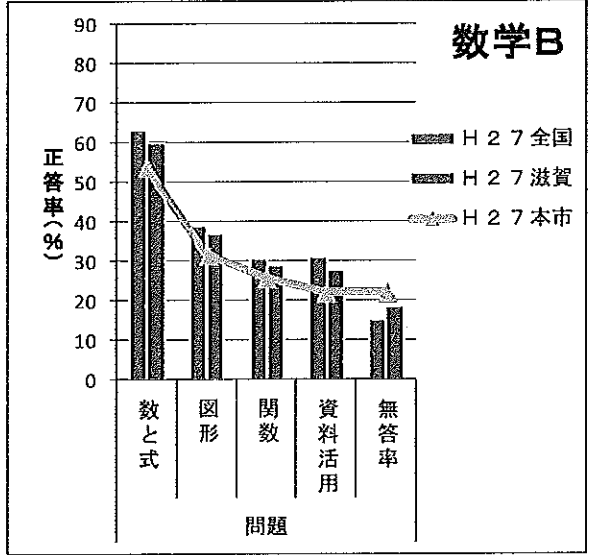
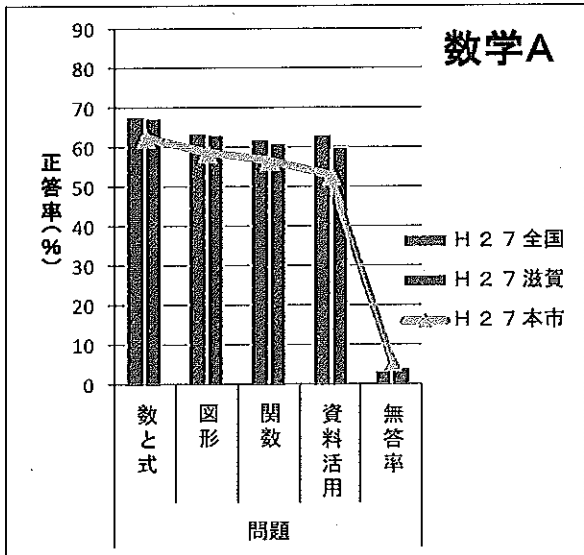
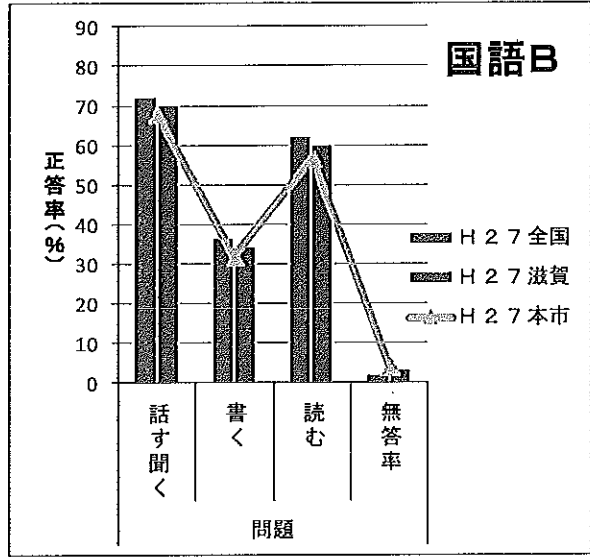
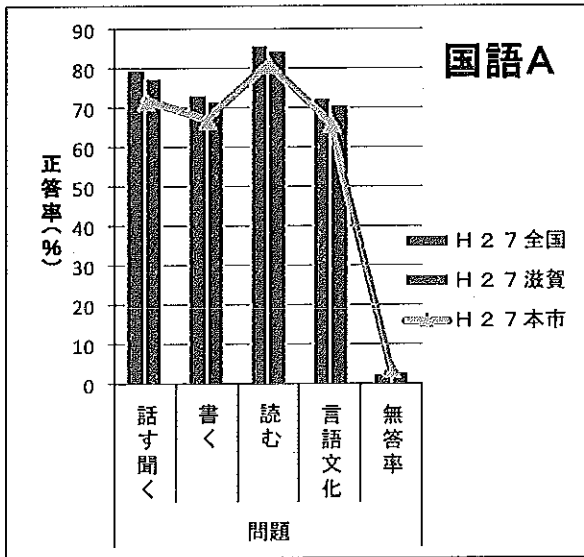


【このグラフから読み取れること】

- ・全国的な傾向であるが、「無解答率」は極めて低い。粘り強く問題に取り組もうとする姿勢が伺える。
- ・国語では、「書く」ことについて全国や県との正答率の差はなくなってきている。重点的に授業改善を進めてきた成果である。「話す聞く」ことについて、課題が大きい。
- ・算数では、B問題での「数と計算」に課題が大きい。問題の内容を読み取った上で、計算によって答えを出す力が求められている。
- ・理科では、「物質」についての課題が大きい。実験や観察など実体験を通して、正しく物質を捉える指導改善が必要である。

中学校

領域別平均正答率の比較



【このグラフから読み取れること】

- ・全国的な傾向であるが「無解答率」は極めて低い。粘り強く問題に取り組む姿勢が伺える。
- ・国語では、「書く」ことについて全国や県との正答率の差はなくなってきている。重点的に授業改善を進めてきた成果である。「話す聞く」「読む」ことについて、課題が大きい。
- ・数学では、「資料活用」に課題が大きい。また、B問題での「数と式」に課題が大きい。問題の内容を読み取った上で、計算によって答えを出す力が求められている。
- ・理科では、「生命」についての課題が大きい。実際に観察することにより知識を蓄えていく指導改善が必要である。

5. 児童・生徒質問紙の結果

基本的な生活習慣について

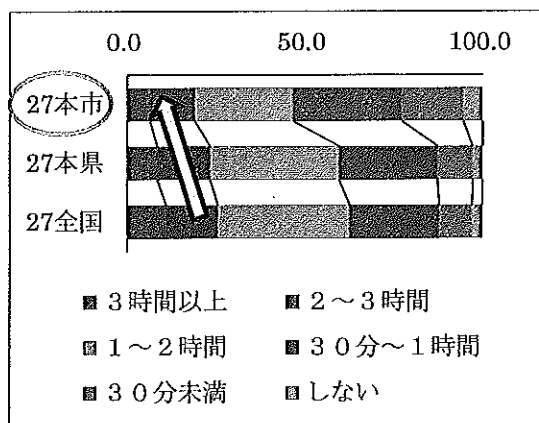
- 朝ごはんの摂取や起きる時刻は、規則正しい児童・生徒が多いです。
- 読書の習慣や寝る時刻、ゲームや携帯電話などの使用時間などについては、課題が見られました。
→ このことについては、『平成27年度全国・学力学習状況調査の結果を受けてく啓発リーフレット』をご覧ください。

家庭学習の習慣について

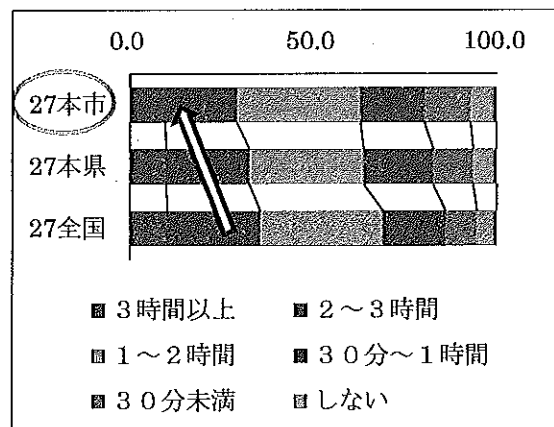
- 小学校では、国の結果と比較して、学校の宿題をすることがきちんと定着しています。
- 中学校では、国の結果と比較して、自分で計画を立てて勉強することがきちんと定着しています。
- 小学校・中学校ともに、家庭学習をする時間や復習をする習慣に、課題があります。
→ このことについても、別資料『平成27年度全国・学力学習状況調査の結果を受けてく啓発リーフレット』をご覧ください。

【設問】 普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

小学校6年生

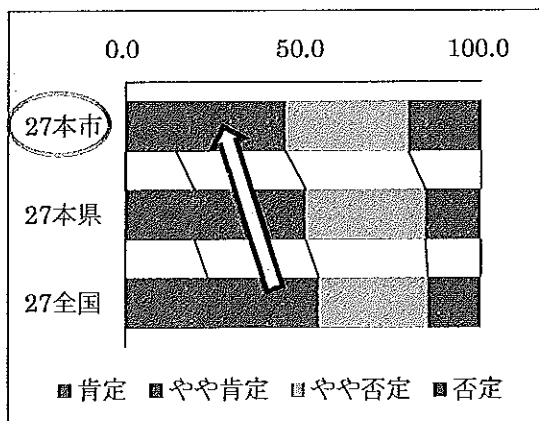


中学校3年生

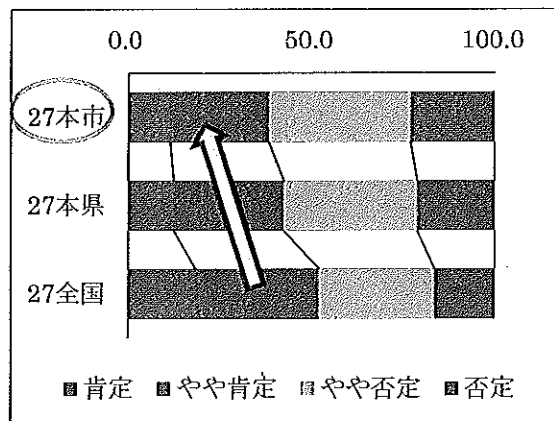


【設問】 学校の授業の復習をしていますか。

小学校6年生



中学校3年生

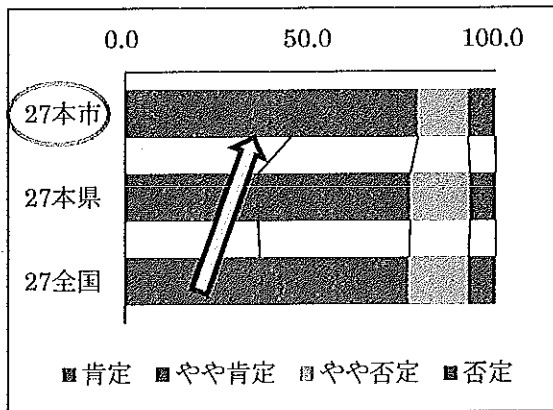


自尊感情・自己肯定感について

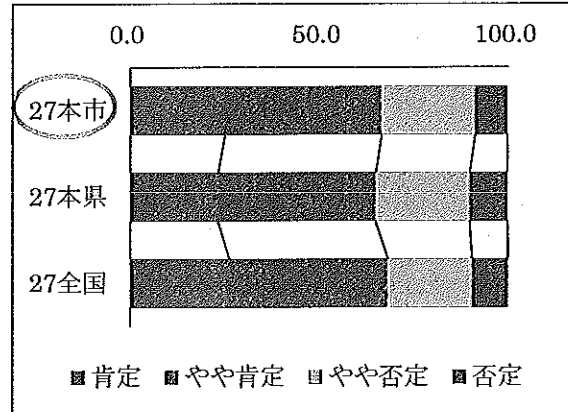
○ 自尊感情・自己肯定感は高まっています。子どもの学力を含めた自己実現に向かう土台はできつつあると言えます。

【設問】 自分にはよいところがあると思いますか。

小学校6年生



中学校3年生



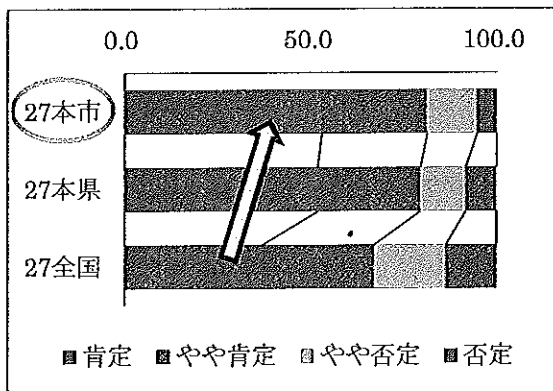
地域との関わりについて

○ 地域行事に参加している児童・生徒が多く、地域ときちんと結びついています。

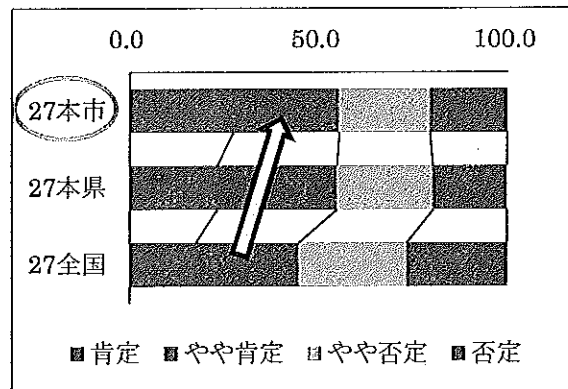
● 地域や社会のことを考える意識が高まっています。

【設問】 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

小学校6年生

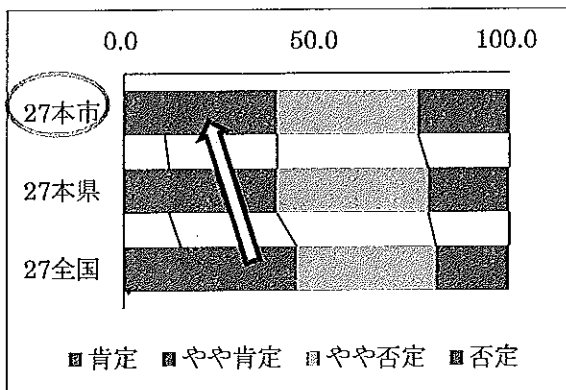


中学校3年生

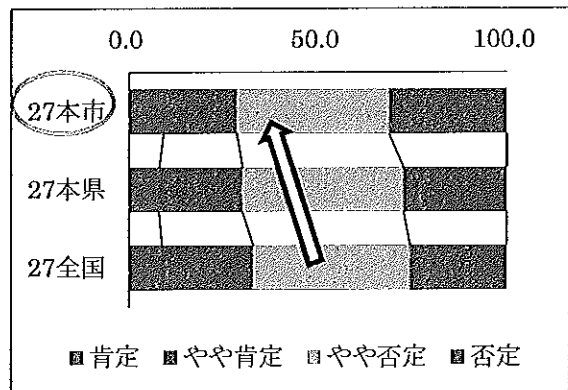


【設問】 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

小学校6年生



中学校3年生

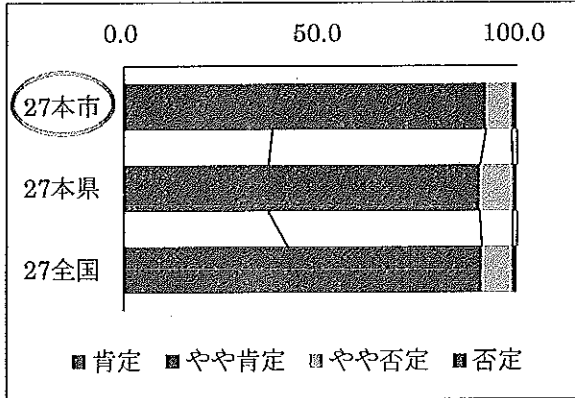


学校生活について

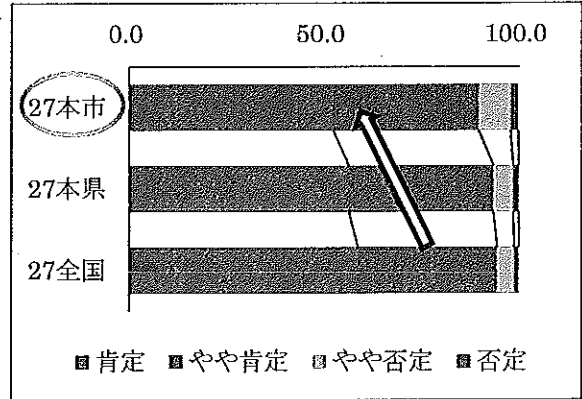
- 学校へ行くのが楽しいと肯定的に思っている児童・生徒は、国の割合とほぼ同じで、小学校では9割程度、中学校では8割程度の児童・生徒が学校生活は楽しいと感じています。
- 中学校では、学校のきまりを守っていると肯定的に答えている生徒の割合が、国と比べて低く、規範意識がきちんと身につけていません。

【設問】学校のきまりを守っていますか。

小学校6年生



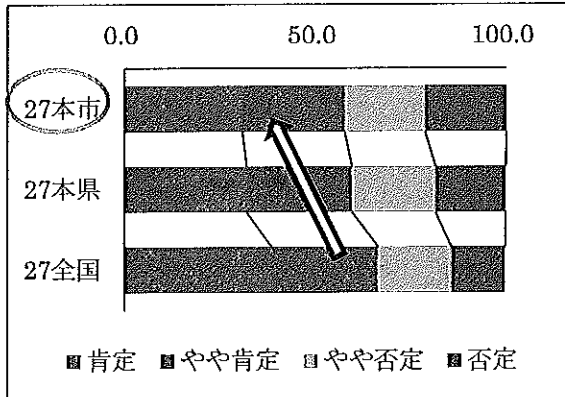
中学校3年生



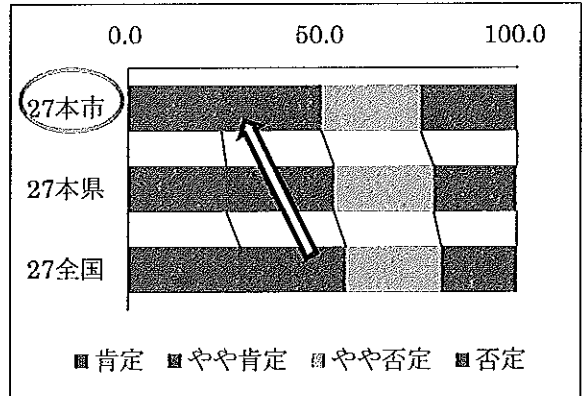
- 国語を学習することを肯定的にとらえている児童・生徒は多いですが、算数や数学を苦手な思っている児童・生徒は多いといえます。

【設問】算数や数学の勉強をするのは好きですか。

小学校6年生



中学校3年生



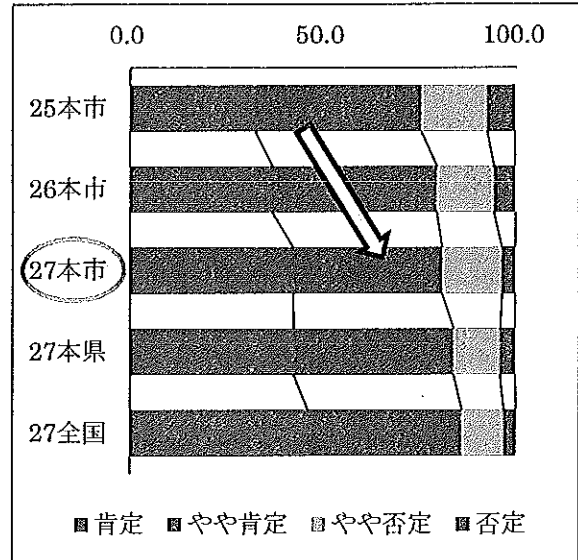
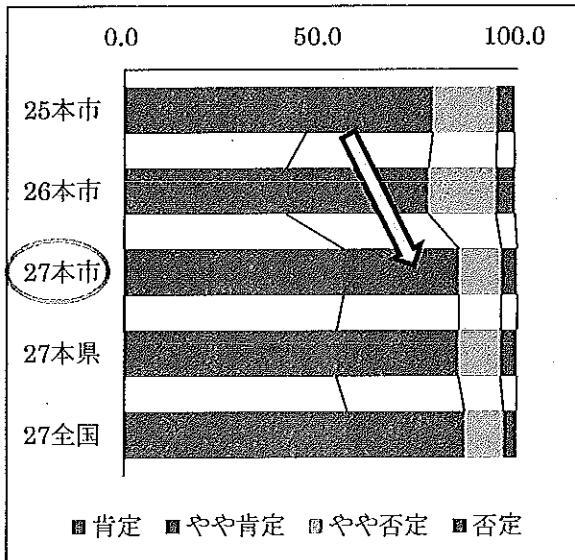
学校での授業について

△ 小学校・中学校ともに、授業改善を進めていますが、まだまだ国と比べると改善できていない現状があります。

【設問】授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていましたか。

小学校6年生

中学校3年生

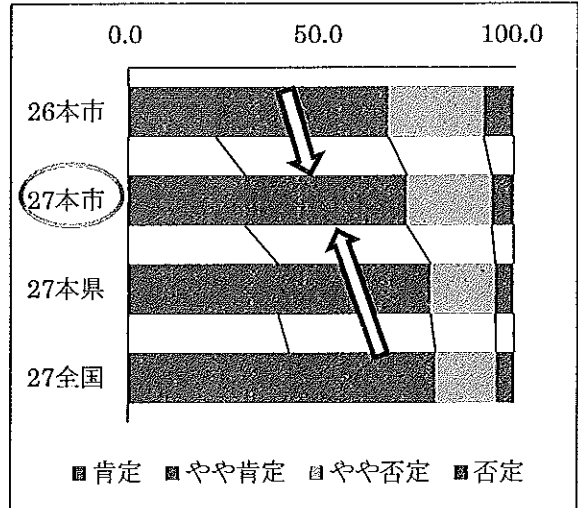
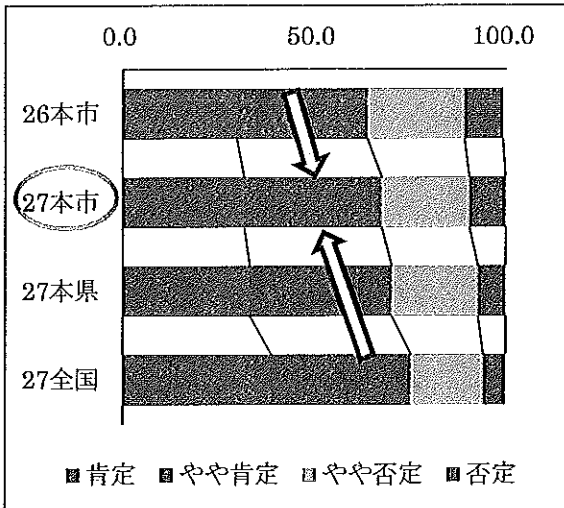


【設問】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくしましたか。

小学校6年生

【設問】授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていましたか。

中学校3年生



- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする（アクティブラーニング）ができているかを問う設問で、小・中学校ともに、課題が見られます。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいかを問う設問で、小・中学校ともに、課題が見られます。

6. 課題解決のための今後の重点的な取組

本市全体を通して

① 自分の能力を伸ばせるように、授業全体の質（レベル）の向上をはかります。

- ・学級やグループでの話し合い活動を効果的に取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように知識を活用する授業へと改善していきます。
- ・授業者が一つひとつ丁寧に説明するにとどまらず、子ども自身に考えさせる授業へと改善していきます。
- ・国語・算数（数学）・理科の授業の中では、発達段階に応じて、次の項目を重点的に指導していきます。

| | |
|----------|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none">・目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること・自分の考えを書くときに、考えの理由が分かるように気をつけながら書くこと・意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること |
| 算数 数学 | <ul style="list-style-type: none">・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えること・問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くこと・問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないか考えること |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none">・学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること・観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えること・自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てること |

② 習熟度に応じたきめ細かな学習支援を行います。

- ・複数指導や少人数指導を実施している学校では、習熟度別のグループ編成による授業も取り入れ、学習の得意な子には発展的な学習ができるように、学習の苦手な子には基礎・基本の定着が図れるように個に応じた授業を推進します。
- ・放課後や長期休業などを使い、発展的な学習や基礎・基本の定着が図れる補充学習を推進します。
- ・学校支援地域本部事業等と連動させ、授業支援・学習支援として、大学生も含め地域の人材を活用していきます。

③ 学習したことの定着を図るため家庭学習を充実させます。

- ・基礎基本の定着を図るためのドリル学習は大切であるが、それ以外に発展的な内容に取り組める学習や練習問題なども多く取り入れていきます。
- ・発達段階に応じて、活用するドリル・ワークなども見直しを図ります。
一つひとつ丁寧になっているものではなく、自分の考えを書いたり、まとめたりなどできるものも活用していきます。

④ 学習内容の定着を確かめるための評価テストなどのあり方を見直します。

- ・ 学習の定着度を図るためや評価をする際に、授業者によるオリジナル評価問題（知識を活用できる問題）も取り入れていきます。
- ・ 中学校においても、公立高校の入試問題が、知識を活用する問題を中心に出题されるようになったことともあわせ、定期テストの問題形式を見直していきます。

⑤ 落ち着いた環境の中で学習ができるように授業規律の向上を図ります。

- ・ 「だめなものはだめ」という意識をしっかりと子どもたちに根付かせ、できていない場合は「やり直し」をさせるなど規範意識を高めます。
- ・ 「チャイムとともに始まり、チャイムとともに終わる」という基本を大切にし、45分間（中学校は50分間）、子どもたちの学びにとって、無駄な時間がないように授業を展開します。
- ・ 授業者は、適切な言葉づかいで授業を行い、学習用語も正確に指導します。
- ・ 校区の小・中学校が授業規律を共有し、一貫した取組の中で授業が展開できるように改善を進めます。

⑥ 「生きる力」育み委員会の指導・助言を受け、「生きる力」育みプランに沿って取組を推進していきます。

- ・ 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動の実態調査結果をもとに、課題を分析し、基本的生活習慣の定着が図れるように取組の重点を決め、取組を強化します。
- ・ 『平成27年度全国・学力学習状況調査の結果を受けてく啓発リーフレット』を作成し、基本的生活習慣の重要性を保護者・地域に周知します。
- ・ 読書環境を整備し、子どもが読書に親しむ時間を増やします。
- ・ 学校内外の授業改善・学力向上に関わる研修を充実させ、教員の授業力・指導力向上を図ります。
- ・ 授業改善推進校の研究成果を、市内小・中学校に広め、各校における授業改善に生かします。

<平成27年度 授業改善推進校>

| | |
|-------|---|
| 桐原小学校 | 国語の授業改善を行う中で、『桐小スタンダード（授業規律）づくり』を行い、取組の検証を行う。 |
| 北里小学校 | 算数の授業改善を行う中で、『表現し学びあう』指導法を追及し、取組の検証を行う。 |
| 八幡中学校 | 数学の授業改善を行う中で、『上位層と下位層の2極化を克服する』指導法、家庭学習の定着化を追及し、取組の検証を行う。 |

- ・ タブレットパソコン研究指定校の研究成果を、市内小・中学校に広め、また教育研究所と連携を行い、各校におけるICT機器の有効活用を図ります。

<H27～H29 タブレットパソコン研究指定校>

| | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 研究指定校 | 桐原東小学校 | 武佐小学校 | 八幡中学校 |
|-------|--------|-------|-------|

平成27年度 近江八幡市 「生きる力」育みプラン

生きる力(知・徳・体)

- ◇基本的な生活習慣の定着
- ◇読書習慣の定着
- ◇運動習慣の定着
- ◇基礎・基本的な学力の定着
- ◇思考力・判断力・表現力の向上
- ◇家庭学習の定着

近江八幡市「生きる力」育みプランの実践

「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」リーフレット作成・配付

実践成果の検証とまとめ

育みたい力の4つのポイント

| | |
|--------------|-----------|
| 将来を見据え、目標を持つ | ねばり強く取り組む |
| 人と豊かにつながる | 自分の力で取り組む |

自己の力を発揮し、周囲の力を活用する

実践スタイルの確立
平成28年度

「生きる力」育み委員会

検証・まとめと次年度の策定

プランの実践と検証
平成27年度

「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の推進

◎朝読書の推進

- 取組の継続
- 取組日の増設

◎読書環境の整備

- 図書館支援員の配置
- 図書室経営講座の開設

◎市立図書館との連携

- ブックトーク、読み聞かせの企画と実施
- 推奨本リストの作成と配付
- 読書感想文コンクールの実施

読書活動の推進

学力向上に向けて

◎自校の学力向上プランの実施

- PDCAサイクルの実施
- 本市の改善ポイント
 - 基礎・基本的な学力の向上
 - 論理的思考力・判断力・表現力の向上
 - 家庭学習の充実
 - 授業の改善
- ICTの有効活用
- 電子黒板・書画カメラ

◎校内研・授業研の充実

各校の実践

基本的な生活習慣の見直し

◎保護者向け啓発リーフレットの配付

- 市内小学生全戸配布
- 学力調査と生活習慣のクロス集計

◎「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の推進

- アンケートの実施

授業改善・授業力アップ

◎授業改善推進校の設置

- 小学校2校・中学校1校を指定
- 専任の指導主事・講師の継続的派遣

◎タブレットPC研究指定校の設置

- 小学校2校・中学校1校を指定
- タブレットの配備

◎指導主事の派遣

- 校内研への積極的・継続的派遣
- 授業研への積極的・継続的派遣

◎市教育研究所の講座開設

- 教科指導の講座開設
- 板書・ノートづくり等の講座開設

検証・まとめと次年度の策定

実践の推進

- (委員会組織)
- 市立小・中学校
 - 校長代表(1名)
 - 教頭代表(2名)
 - 主幹教諭または教務主任(小1名)(中1名)
 - 養護教諭(中1名)
 - 保健主事(小1名)
 - 市立図書館(1名)
 - 市教育研究所(1名)
 - 有識者(1名)
 - 市教育委員会
 - 生涯学習課(1名)
 - 幼児課(1名)
 - 学校教育課(事務局)

- ▼基本的な生活習慣が十分に身につけていない
- ▼読書の習慣が定着していない
- ▼家庭学習が習慣化されていない
- ▼論理的な思考・判断・表現力が十分でない

現状と課題

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

八幡小学校

1. 教科の授業で思考力・表現力を伸ばすために、課題について自分の考えを持つ場を設定し、自分の考えを書き表したりお互いの考えを伝え合ったりする展開を実践します。
2. 算数の少人数指導や個別指導を通して、習熟度に応じた学習支援を行います。
3. 家庭学習の充実、質の向上のために、「復習・予習・読書」に取り組むよう指導します。
4. 学び確認テストや学び直しプリント等を活用し、各学年のまとめの学習を行います。
5. 授業規律の向上のため、話す・聞くことの学習ルールやノートの指導を丁寧に行います。
6. 基本的な生活習慣及び学習習慣の育成のため、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動に個々のめあてを設定して取り組みます。

島小学校

1. 授業改善
 - (1) 「思いや考えをノートに書いたり、友達に伝えたりする活動」を意図的に取り入れます。
 - (2) 「学習用語を使う、何字以内」といった条件を与えて書く取り組みを行います。
2. 指導の工夫改善
 - (1) 希望者対象の「放課後学習」で自主的な勉強のすすめを促すよう指導します。
3. 教員の授業改善研究
 - (1) 授業分析をしっかりと行った研究を進め、日々の実践に生きるよう工夫します。
4. 啓発連携
 - (1) PTA と連携して、「早寝運動」「予習のすすめ」や「メディア利用」を考え合います。

沖島小学校

1. 授業において
 - (1) ノート指導の工夫・改善…めあてとまとめを書くことにより、見直せるノートにします。
 - (2) 授業規律の継続指導…全員が同じ方向で当たり前なことを当たり前に行えるように指導します。
 - (3) 体験活動のさらなる充実…量感を実感したり、説明を書いたり話したりする活動を重視します。
2. 学校生活において
 - (1) 丁寧な指導…場に応じた適切な言葉で話す、話を分析しながら聞く、じっくり本を読むことを重視します。
 - (2) 表現の場づくり…集会や発表会等、自分の考えや意見を発表する機会を増やします。
3. 家庭学習において
 - (1) 授業とのつながりを意識した家庭学習…内容は復習や予習を意識し、読書の時間を確保します。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

岡山小学校

1. 岡山タイム（毎週金曜日の朝学習）での「読み」「書き」を中心とした学習の継続
 - (1) 「読み」「書き」の力をつけるために、国語の音読や視写（低学年）、プリント教材での学習を行います。
 - (2) より効果的・適切である教材プリントを検討・選択していきます。
2. 「学び合い」の素地づくり（授業規律の向上）
 - (1) 全校共通したノート指導（算数科）を他教科へ広げ、定着させていきます。
 - (2) 授業規律の向上に向けた、全校共通して取り組んだ「話し方、聞き方ルール」を継続しながら、考えや思いを表現できる説明スキルを身に付けていきます。
3. 算数では、日常生活の事象を問題として取り上げます。

金田小学校

1. 授業の改善に努めます。
 - (1) 各授業における「めあて」を明確にし、学習したことを振り返ることを位置づけます。
 - (2) ノート指導を丁寧に行い、書くことを習慣づけます。
2. 家庭学習の充実に努めます。
 - (1) 「家庭学習のてびき」をもとに、家庭学習について指導します。
 - (2) テレビなどを消し、学年の目標時間学習できることに挑戦する取組を重視していきます。
3. 読書活動の活性化に向けた取組をします。
 - (1) 朝の読書タイムを充実します。（読み聞かせ、本の携帯）
 - (2) 「読書貯金」や「親子読書」の推進を図ります。

桐原小学校

1. 桐小スタンダードの確立（授業のロスタイムをなくします）を図ります。
 - (1) 授業改善…主体的に授業に参加できる工夫として意思表示カードを活用します。
 - *子どもが考える時間を確保し、友達の意見をよく聞ける聞き上手の子どもを育てます。
 - *書く時間を確保します。
 - (2) 授業規律…場面や相手に応じた話し方・聞き方の指導や、休み時間に入る前に次の授業の準備を徹底します。
2. 家庭学習パワーアップ週間とチョイス・ザ・メディア運動を充実します。
 - (1) 定期的な生活点検→児童に意識化→個別指導→家庭学習の定着化
 - (2) 定期的な点検→メディアと接する時間を自分で律する子どもの育成→家庭との連携
3. 学力アップタイム（ガッテンプリント等を利用）を充実します。

水曜日の朝15分間、木曜日放課後20分の国語の基礎学習や計算練習（複数指導3～5年）

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

桐原東小学校

1. 学び合い学習（アクティブラーニング）の推進
グループ学習（2人・3人・班単位）での意見交流を積極的に行い、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成を図ります。
2. 習熟度別学習時間等の確保
コース選択による習熟度別学習（算数科が中心）を行い、児童がより意欲的に課題に取り組み、かつ大きな達成感を味わえる学習時間を創造します。
3. ICT機器の積極的活用
タブレットPC、電子黒板を効果的に活用し、楽しく、わかりやすい双方向型の授業を展開します。

馬淵小学校

1. 授業の最初に「本時のめあて」を提示するとともに、授業の終わりには「本時の学習で学んだこと」を自分の言葉で記述する活動を積極的に取り入れます。また、授業の中に「書く」活動を意図的に取り入れます。
2. 算数科において、T・T（教師二人体制）指導に加え、一つの学級を二つのグループに分けて学習する少人数指導を行い「個に応じる指導」を展開します。
3. 「家庭学習の手引き」を作成し、家庭との連携のもと家庭学習の充実に努めます。
4. 単元末のテストの際などに、授業における中心発問（授業の中で最も考えさせたい内容）等を活用した思考力・判断力・表現力を問う教師による評価問題を加え、学習と評価の一体化と評価の改善に努めます。

北里小学校

1. 授業づくり（改善）
 - (1) 「めあてー学び合いー振り返り」を位置付けた授業を行います。
 - (2) 学んだ内容の活用を図り、言語活動を取り入れた問題解決型の授業を行います。
 2. 学びの姿勢づくり
 - (1) 学習に向き合う規律（北里小学びのスタンダード）をもとに、言葉を大切にしたい指導を行います。
 3. 確かな学力の向上
 - (1) 学習内容を深め定着を図り、学習の習慣化のための家庭学習の質・量を確保します。
- ※アンケート調査（評価）を実施しながら進捗状況等を確認し、よりよいものに改善します。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

武佐小学校

1. 授業では
 - (1) 国語
 - ①校内研究で取り組んでいる「書くこと」を重視した学習展開をより深めます。
 - (2) 算数
 - ①分数や割合の問題を学力アップタイムや放課後学習会の時間に復習します。
 - (3) 規律
 - ①鉛筆の持ち方、聞き方名人、話し方名人をより意識した指導を行います。
2. 家庭では
 - (1) 家庭学習ががんばり週間を設け、家庭学習の時間を増やし、自主学習ノートを活用します。

安土小学校

1. 活用力を育てる授業づくり
 - (1) 一人ひとりが自分の考えをもつ場や互いの考えを交流し高め合う場のある授業をつくります。
 - (2) グループ学習を効果的に取り入れ、多様な考えを知る経験と、自分の考えを整理して話す機会を増やします。また、子ども自らが課題を解決できるよう導入や課題提示を工夫します。
2. 次につながる学習の振り返り
 - (1) 漢字・計算のミニテストを繰り返し行うとともに、学習の中で自分が学んだことを整理し、発展的な学習課題を考える場をつくります。また、自己評価の習慣をつけます。
 - (2) 分析で明らかになった学力課題に応じた問題や記述式の問題、実生活の場面でよく使われるような問題を評価テストに取り入れます。また、間違いに気づき修正しようとする力をつけるため、学習の振り返りの時間を必ずとります。

老蘇小学校

1. 学力向上『三』づくりを行います。
 - (1) 授業づくり ・言語活動（読む・書く・話す・聞く）を取り入れ、課題解決学習の四段階（課題把握・自力解決・集団検討・よさの鑑賞）を通して、思考力・判断力・表現力の向上をめざした授業づくり。
・体験・作業・実験観察等を通して日々の生活事象と関連した授業づくり。
 - (2) 学習環境づくり ・興味を持てる、振り返りができる、努力がわかる、教室や廊下の環境づくり。
 - (3) 学習習慣づくり ・学習ルールの定着や家庭学習の習慣、読書習慣、基本的な生活習慣づくり。
2. 学力補充を充実します。
 - (1) つまずきの把握と学び直しを通したきめ細かな学力補充。
 - (2) 放課後の時間を活用した学力補充。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

八幡中学校

1. 授業改善に関して

- (1) 12月9日に「学び確認テスト」を実施し、結果を分析し、授業改善に生かします。
- (2) 校内研究を通じてタブレットPC（研究指定校）の有効利用を研究します。
1月21日に授業改善をテーマにして研究授業を実施し、大学教授から指導を受け、指導に生かします。

2. 評価のためのテストの見直しに関して

- (1) 公立高校の入試問題を分析し、授業の中で具体的に取り上げます。また、学力テストの過去問題も授業の中で取り上げます。定期テストでも思考力・判断力・表現力を問う問題を取り入れていきます。

3. 教科学習以外の取組に関して

- (1) 朝読書を充実させます。特に毎週金曜日に実施している「書く」取組を重視し、まとめて書く力をつけます。

4. 学習ボランティアとの連携に関して

- (1) 書道の時間や長期休業中の補充学習等での学習支援を充実します。
(学校支援地域本部事業ボランティアさんとの連携を継続し、深めていきます。)

八幡東中学校

1. 授業改善の取組

- (1) 学習集団づくりをもとにした話し合い活動や表現活動を充実させるとともに、授業目標を明確にし、指導と評価を一体化させたわかりやすい授業を行うよう努めます。
- (2) 学習意欲を高めるための教材研究や研究授業、ICT機器の活用を積極的に行い、生徒が学習に意欲的に取り組めるようにします。

2. 学習支援の取組

- (1) 早朝や放課後の時間を活用して補充学習を行い、生徒のニーズに応じた学習支援を行います。
- (2) 少人数指導（数学科で実施している）などきめ細かな指導を充実します。

3. 授業規律の向上の取組

- (1) 小学校と連携して授業規律の在り方や指導の仕方を検討し、学習環境を整えたり、学習姿勢を習慣づけ、定着させるため取組をおこないます。
- (2) 学習プロセスのパターン化に取り組み、生徒が見通しを持って学習に取り組めるよう配慮します。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果から

各学校における課題解決への今後の重点的な取組

八幡西中学校

1. 授業全体のレベルの向上に向けて
 - (1) 文章による表現力をつけるため、じっくり落ち着いて読んだり、書いたりする機会を大切に書くことへの抵抗感をなくしていきます。
 - (2) 授業中での話し合い活動や発表の機会を作り、自分の考えを言葉で説明したり、人前で発表する機会を設けます。
2. 家庭学習の充実・質の向上に向けて
 - (1) 生徒には家庭学習が学力の定着のために大切であることを指導し、保護者にも協力を求めています。
 - (2) 計画的に家庭学習課題を出していきます。そして点検と評価を確実に行います。
3. 授業規律の向上に向けて
 - (1) 現在効果を上げているベル着指導を今後も継続してさらなる定着を図ります。
 - (2) 授業態度の大切さを繰り返し訴えていきます。学校だより・学年通信等で理解と協力を求めています。

安土中学校

1. 学習意欲の喚起
 - (1) 毎時間の授業で学習の目標（めあて・ねらい）を明示し、授業の終わりにまとめと振り返りを行うという授業形態を確立し、学習内容をしっかりと確認します。
 - (2) 学習内容と日常生活を結びつけるために、日常生活に即した応用問題を工夫します。
 - (3) 学習シラバス【年間の学習指導計画】を導入し、授業はもとより家庭と連携を図りながら家庭学習の強化を行い、学習習慣の定着に努めます。
2. 思考力・判断力・表現力の育成
 - (1) グループワークやペアワークを用い、話し合い活動を通じて、「書く・まとめる・発表する」機会を積極的に設け、コミュニケーション能力の育成を図り、言語活動の充実を努めます。
 - (2) 各教科で基礎的・基本的な知識をもとに活用力を高めるために、与えられた課題に対して筋道を立てながら自分で考え、判断し、まとめていくという課題解決的な学習を多く取り入れていきます。また、定期テストなどでも知識や技能の活用、課題解決的な応用問題を重視していきます。